

日本で会える動物 【鳥類1】

地 地獄谷野猿公苑でも、運がよければ、いろいろな日本の野鳥に会うことができます。



Photo: Omachi Alpine Museum

ニホンライチョウ **大**

分類：キジ目ライチョウ科
 英名：Japanese Rock Ptarmigan
 学名：*Lagopus muta japonica*
 分布：日本(本州)
 全長：約 36cm
 翼開長：約 60cm
 体重：400~600g

生態：日本の特別天然記念物に指定されている鳥。年間を通して北アルプスなどの亜高山帯から高山帯に生息し、春～夏、秋、冬の各季節にあわせて換羽することで、羽の色が変化する。23亜種に分けられるライチョウの中でも最も南方に分布する亜種。1980年代には3000羽が生息すると推定されていたが、2000年代の調査で2000羽以下と推定され、2012年に絶滅危惧ⅠB類（環境省第4次レッドリスト）へ指定されるなど、保全の必要性が高まっている。2015年より国内の動物園で飼育が開始されているが、一般公開は飼育繁殖に万全を期すため行われていない。

日本の鳥ではないですが・・・



Photo: Chausuyama Zoo

スバルバルライチョウ **大**

分類：キジ目ライチョウ科 **大**
 英名：Svalbard Rock Ptarmigan **茶**
 学名：*Lagopus muta hyperborea* **飯**

分布：ノルウェーのスバルバル諸島など
 体長：40cm 程度
 体重：500~1200g
 生態：23亜種に分けられるライチョウの中で、最も北方に分布し、最も大型の亜種。ツンドラ気候で、夏でも平均気温が7℃程度の寒冷な環境に生息している。絶滅が心配されるニホンライチョウを、動物園で保護・飼育しなければならなくなることを考え、その飼育繁殖技術を確立するために、飼育されている。

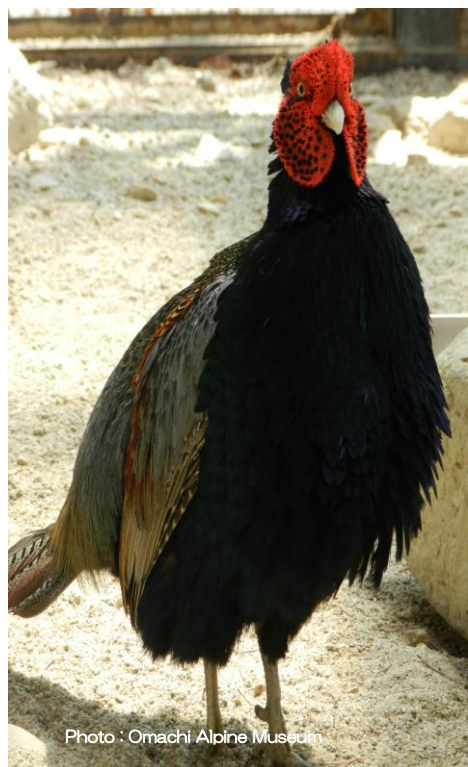


Photo: Omachi Alpine Museum

ニホンキジ **大** **城** **須**

分類：キジ目キジ科
 英名：Japanese Pheasant
 学名：*Phasianus versicolor ssp.*
 分布：日本(本州、四国、九州)
 全長：オス約 81cm メス約 58cm
 翼開長：約 77cm
 体重：オス 0.8~1.1 kg
 メス 0.6~0.9 kg
 生態：日本の国鳥。平地から山地の林縁や草原、川原や農耕地などに生息。日中は地上で行動し、夜間・睡眠時は天敵から身を守るため樹上にいる。オスは興奮状態になると、赤い皮ふの部分大きく膨らませて威嚇する。メスは、全体的に茶色の羽色。これは抱卵の際、保護色となる。草木の実・種子・芽・葉や昆虫・クモなどを食べる。

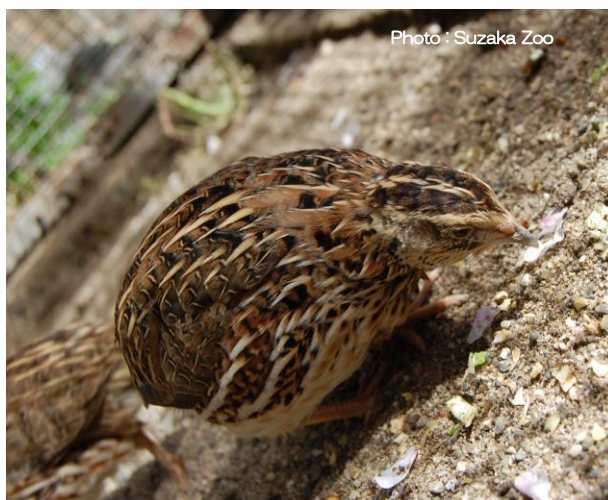


Photo: Suzaka Zoo

ウズラ (家禽種) **須**

分類：キジ目キジ科
 英名：Quail (Japanese quail)
 学名：*Coturnix japonica domestic*
 分布：日本・中国を中心としたアジア東部
 全長：20cm
 体重：オス約 110g メス 130g
 生態：キジ科最小。小さい体ではあるが、キジ科の中では珍しく群れをつくり渡りをする。草むらで種子やイモムシを好んで食べる。ウズラを家禽として飼育したのは日本が最初。



Photo: Matsumoto Alps Park

キジバト **松** **飯**

分類：ハト目ハト科
 英名：Eastern Turtle Dove (Oriental Turtle Dove)
 学名：*Streptopelia orientalis*
 分布：ユーラシア大陸東部 日本
 全長：約 33cm
 翼開長：約 55cm
 体重：約 220g
 生態：平地から山地の明るい森林に生息するが、都市部でも普通に見られる。樹上に小枝等を組み合わせた皿状の巣を作る。「デッポッポー」と鳴く。主に果実や種子を食べるが、昆虫類、貝類、ミミズ等も食べる。雌雄同色。

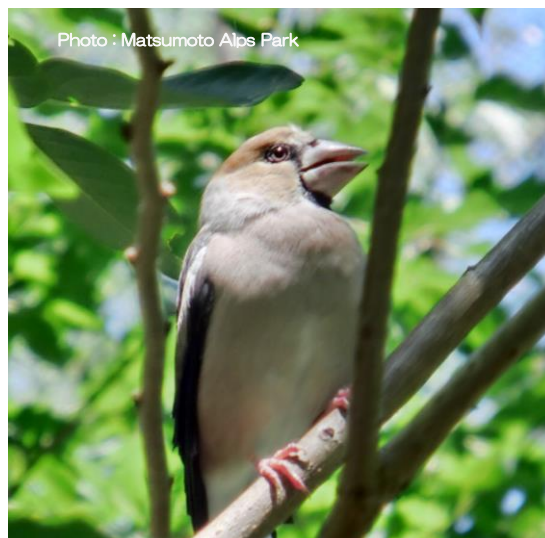


Photo: Matsumoto Alps Park

シメ **松**

分類：スズメ目アトリ科
 英名：Hawfinch
 学名：*Coccothraustes coccothraustes*
 分布：ユーラシア大陸中部
 全長：約 19cm
 生態：平地から山地の落葉広葉樹林や雑木林に生息する。また、市街地の公園、人家の庭でも見ることができる。太い嘴で硬い種子を割って中身を食べる。